



横浜市立万騎が原中学校 学校だより

桐の花

校長 中村 雅一

令和4年

1月19日

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

『新しい年の初めに』

校長 中村 雅一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年は保護者の皆さま、地域・関係諸機関の皆さまにはいろいろとお世話になり、心からお礼を申し上げます。本年も教職員一同、子どもたちの自立に向けた学びへの支援に力を尽くしてまいりますので、本校の教育活動により一層のご理解とご協力をいただけますよう変わらぬお力添えをよろしくお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスは、新たな変異株、「オミクロン株」が世界中で猛威をふるっています。先月、3年生の修学旅行で京都から帰る12月23日、日本では沖縄、大阪に次いで、京都においてもこの変異株の市中感染と見られる陽性者が1名出るというニュースが入り、冷やっとなりました。その後、一ヶ月も経たない1月9日には、沖縄、広島、山口の三県で「まん延防止等重点措置」の適用が開始されています。この新たな変異株の感染力の強さには驚きます。重症者や死亡に至る患者の割合はデルタ株と比べて少ないとはいえ、医師などエッセンシャルワーカーの感染、濃厚接触者の増加で、再び医療がひっ迫し、社会経済活動が滞ることにならないか心配されるところです。教育活動も同様です。基本一回勝負の入試を控えた受験生に対する救済措置も柔軟な対応が求められますが、受験制度の抜本的な見直しにも新学習指導要領や新しい学力観のもと、着手してほしいと思っています。

いま、3年生の皆さんにとっては、この一度きりの高校入試を間近に控え、「オミクロン株」への感染が拡大する中、不安に思う人も少なくないと思います。感染対策はもちろん重要です。試験対策も追い込みから、心も体も整えていくことが大切であることを意識してください。そのために、いくつか注意してほしいことを挙げるとしたら、まずは、ここきて「完璧をめざさない」ということです。例えば、ある時間をかけて理解が進まなければ、それ以上は気にせず、こだわらないということです。いま、わからないことは無理に理解しようせず、とりあえず先へ進む。先に進んでみると、前の疑問が思ったよりも簡単に理解できることもあります。が、何よりも、完璧を求めるあまり陥る「不安」の底なし沼にはまることがなくなります。心の健康を保つ意味でも大事なことです。

そして、十分な睡眠と栄養をとり、これまでの基本的な学校や家庭での生活習慣を崩さないことです。もっと言えば、試験を「ドライ」に割り切ることです。第一志望、第二志望、絶対この学校など、思いはあるとは思いますが、「その日、受験する学校が第一志望、合格をもらった学校が第一志望校」と考えていくことです。この先、試験は受験だけではありません。人生の中で乗り越えていかなければいけない試験は続きます。不意に訪れる試験もあります。人生は抜き打ち試験の連続です。「一喜一憂」せず、着実に前に進んでいくことです。

さらに、この日常を崩さないことは大事なことです。受験のこの直前期にオミクロン株の感染状況で、例えば、面接がなくなったり、受験方法や日程が変わったり、緊急避難的な対応があるかもしれません。置かれた環境は、受験生みな同じです。突発的なことが起きても「沈着冷静」に「平常心」を心がけてください。

私たちは、未だにコロナの危機の中で生活している、元の生活に戻ることはないという前提で、今後も変化に対応できることが求められていくのでしょうか。すでにこれまで当たり前とっていたことが通用なくなり、正解のない「予測不可能な時代」に突入しています。そのスピードも速く、変化のスケールも大きい新しい社会の入り口にきた今、常に新たな、未知のことに取り組んでいく考え方をしていかなければならないのだと思います。

このような社会の変化に対して、子どもたちには「自らが問いをつくる」、「自分で問いが立てられるか」、正解にたどり着くことより「なぜ」と問うことが大切だと言われます。それは、自ら課題を発見し、他者と協働してその解決を図り、新しい知・価値を創造する力を育成していくことでもあります。知を育てる上で基本的な技法の一つが「ダイアログ」、つまり「対話」が生まれるところで、人間関係が作られ個人が成長していくと言われます。学校ができることの本质は、そのような「場」を提供することなのだと思います。その他にも、非認知能力（学力テスト等で測定できない能力）を育む体験や教育の機会の提供も大切な学校の役割です。コミュニケーション力や思いやり・共感性、粘り強く取り組む忍耐力や調整力、自信や自尊感情などの非認知能力を育て高めていく「場」の提供が必要だと考えています。

今年度より中学校は、新学習指導要領がスタートしました。学校における働き方改革の推進や、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行などの課題もありますが、すべての生徒たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現、さらには、「主体的・対話的で深い学び」の展開、GIGAスクール構想における「1人1台端末」の有効的な活用やICT教育なども喫緊の課題です。

この新たな社会の変化に対応し、自分たちを取り巻く様々な社会の課題に向き合い、解決しようとする資質・能力を育むための教育活動は、正に現状を切り拓き自立した市民となるための子どもたちに必要とされるものであり、そのために私たち教職員は全力で取組を進めていかなければならないと考えています。

どうぞ、2022年もよろしくお願いたします。

(令和4年 1月15日)

